

ための支援などを行います。

具体的には、茶の改植、省力化のための機械導入、緑茶加工施設整備、作業道整備など茶業生産基盤整備への補助と流通面からお茶の販路拡大策を目指す「市場開発調査推進事業」を進めます。

また、近年耕作放棄地が増加傾向にありますので、農業生産基盤としての農地の維持、ふるさと景観の維持、国土の保全などという点からも耕作放棄地対策に取り組んでまいります。ユズの植栽などお茶との複合作目の導入等についての支援、調査研究なども進めます。

商工業や観光業の振興も大きな課題であります。商業環境は、島田市ほか近隣都市周辺地域に大型駐車場を有する大型量販店が立地し、道路事情が改善されるに伴って購買力の流出が進み、建設業関係は公共事業費の削減や住宅着工件数が大幅に落ち込み、製造業も空洞化や円高等の影響を受け、観光関連事業も入込み客数の回復が見られないなど、産業界はいずれも厳しい状況にあります。農・林・商・工・観が連携して、6次産業化を目指す中で活性化を

図つていきたいと考えます。

町の活性化は人口の多寡によつて決まります。定住促進策は町としてまず進めなくてはならない施策であります。

これまでに亡くなる人や転出する人の数が多く、新たに転入し、定住する人の数が表面に出にくかった感もあります。が、ここ10年・20年の間に町内に移住された人の数も決して少なくありません。このように川根本町を好きになつて来てくださる人も結構いらつしゃいます。ちやつきり娘として、あるいは緑の協力隊として川根本町での暮らしを体験する人、千年の学校や川根茶塾などで川根本町を知ろうとする人もいらつしゃいます。これらの人々の意見も伺いながら今後本町への定住促進を図ることは大きな意味があると思われまふ。このようなことから、「空き家バンク」の開設や「空き家改修補助制度」のスタートなどにより定住促進を図つていきたいと考えます。

また、交流人口の増加を図るには、川根本町へのアクセスを改良することが大切であり、そのためには道路整備を促進することや大井川鐵道と

本町の展望

- 一、安全で安心のまちづくり
 - 二、元気で活力に満ちたまちづくり
 - 三、夢を持って明るく前向きに取り組めるまちづくり
- 3つの柱から成る、わたしたちの暮らしとは

の連携・協力が必要になります。

富士山静岡空港が既に開港し、4月には新東名が供用開始となり、島田金谷バイパスの4車線化が計画され、金谷駅の改修工事もあるやに聞く中で、島田市は大井川流域における中心的な交流拠点都市を目指すとし、大井川を軸とした地域づくりを重要視し、野守の池をイルミネーション・スポットとし、川根温泉宿泊施設の建設を進めようとしております。島田市への集客力が高まること予測されることから、島田市をはじめとする流域市町との連携を深めながら、島田市から川根筋を経由して奥大井へ誘うための戦略展開が必要となります。

川根筋を単なる通過点としてではなく、「グルメやショッピングなど川根の魅力をまるごと満喫できるようなエリア」、「都市住民とふれあい、交流し、相互理解を深めるようなエリア」として、大井川筋の街道整備を進め、宿泊基地として寸又峡温泉、千頭温泉、接叡峡温泉、もりのくになどの再整備を図っていくことが必要となります。そのために、中長期的な展望に立ちながら、できることから取り組める行動計画を盛り込んだ観光振興計画の策定を進めます。昨年、島田市と共催した「S Lフェスタ」についても、本年度も継続して行います。大井川流域の広域連携は、大井川沿線や周辺地域の水源地域

活かしていく

への理解や協力を求める上で、川根本町の元気を再生させるためにも重要なポイントであると考えます。島田市とは、旅行代理店を招いてのファミトリップ等も行いましたが、引き続き今年度も行うとともに、大井川筋の観光振興について連携を深めていきたいと考えます。

(※誘客促進のための現地視察)

3つ目

の柱は、地域間交流の促進

と、住民が取り組む地域づくり活動等への支援によって「夢を持つて明るく前向きに取り組めるまちづくり」を指します。

まちづくりには、何よりもそれを担う人材の育成が大切であります。学校教育から生涯学習まで、成長の過程でさ

まざまな教育や学習の機会が得られるような環境をつくる必要があります。学校教育の面では近年教育施設や教育資器材の整備はある程度進めてきましたが、児童・生徒数の減少により複式教育を取り入れられている小学校や中学生の部活動などに支障を来たしている例が見られ、現場の先生方や保護者の皆様には心配される向きもあると思います。

川根本町における学校教育のあり方を保護者の皆様や地域の皆様とともに検討する必要があると感じております。生涯学習の面からは、地域で取り組む生涯学習によりコミュニケーション活動やまちづくりなどに成果も現れてきておりますので、今後とも推進していきたいと考えております。

地域間交流の面では、川勝知事からお話のあった中国龍泉市との友好都市推進事業や中学生の海外研修事業など国際的な交流から大井川を軸とした観光振興を目指した連携、水資源や河川環境などを通じての流域連携、海の子・山の子の交流など近隣市町との連携、地域内のさまざまな交流・連携などを通して相互理解を深めるとともに、あらゆる場

面で活躍できる人材を育て、住民が将来に夢を持てるまちづくりを進めていきたいと考えています。

また、本年8月に開催されるロンドンオリンピックには、カヌースプリント競技において大村朱澄選手が出場することになりました。オリンピックというアスリートにとって最高の舞台への出場ということで、大村選手を称揚し、激励するとともに、世界に肩を並べ頑張れる人材を育てるという観点からの支援事業を行います。

川根本町には、山のこと、お茶のこと、その他趣味などいろいろな分野で達人としての技や知恵を持った方もいらっしゃると思いますのでこのような人たちが活躍できる場をつくるためにもマイスター制度を機能させていきたいと考えます。

これからのまちづくりに必要なことを熱く語った町長。まちづくりにはよく「協働」という言葉が使われる。まさに今、町民、議会、町(行政)が一体となって、未来に向かって進んでいかなければならない。

有権者からのメッセージ 重く受け止め、今後の町政運営に